

戸手

川崎市立戸手小学校



学校だより

No. 10

令和7年1月31日(金)

ふわふわ言葉で楽しく

校長 後藤 美智子

正門の梅が咲きはじめ、校長室前の梅も蕾が大きくなってきました。春を感じるようになると、今年度もいよいよ残り僅かとなり、卒業や進級におかたてしっかりと準備をすすめてほしいと思います。インフルエンザや新型コロナウイルス感染症等の感染症の流行もみられますが、戸手っ子は元気に生活しています。

一月に新たな気持ちで今年の目標を「㊦んなで ㊦んどんつなごう ㊦んせつなところ」とたてましたが、子ども達にも「巳年はこんな年に！」という内容で聞いてみました。校長室の前にポストと記入用紙を置き、目標を書いてもらいましたので、いくつか紹介をしたいと思います。

「㊦んな なかよく ㊦もだち いっぱい ㊦あわせに」「㊦そラーメンいっぱい食べて㊦んどんもやしトッピング㊦たいな」「㊦んなで ㊦んなことでも ㊦りつくそう」「㊦らいの自分に ㊦んどん ㊦んぼする」などの願いを書িয়েくれました。キーワードで一番多かったのは「しあわせ」そして「しっかり食べて元気に」「たくさんを知りたい」ということでした。成長していきたいという気持ちが表れていました。この願いを1月27日の朝会で発表し、「しんせつなところ」とは何かということを考える機会にしました。「しんせつなところ」とは「思いやり」であり、特に言葉遣いが大切だということをお話しました。言葉遣いひとつで、人の気持ちは良い気持ちにもなるし、嫌な気持ちにもなることを伝えました。生きていく中では、コミュニケーションの手段の一つとして会話はとても重要です。会話は言葉のキャッチボールだと思いますが、なかなか上手にキャッチボールができず、伝わらないなど感じる場合があります。でも、相手はどのようなことを言っているのか、自分の言いたいことは何なのかということが通じ合った時、お互いに理解し合えたという気持ちになり、とても嬉しいものです。子ども達も低学年ではなかなか言語化することができず、トラブルになることも多くありますが、学年があがるにつれて会話を通じてお互いに気持ちを通じ合わせて、いろいろなことへ取り組めるようになっていきます。教室でも「ふわふわことば」(ありがとう!がんばって!やったね!その調子!いいね!すごいね!ごめんね!楽しいね!など)「ちくちくことば」(おかつく、きもい、バカじゃない、どけ、入れてあげない、うざいなど)の例を示し、「ふわふわことば」を使おうと指導しています。ご家庭や地域でも「ふわふわことば」で会話し、楽しい気持ちや嬉しい気持ちをたくさん味わってほしいと思います。そして、戸手っ子の子ども達が、思いやりの気持ちを言葉で表現し、あたたかい人間関係を築いていってほしいと思います。

2月はあつという間に過ぎていくと思いますが、20日には開校記念日です。67周年を迎えますが、戸手っ子にとって戸手小学校に通えることが誇りであり、自慢できる学校であり続けたいと思っています。また、28日には学校報告会、懇談会(6年生は別日)を予定しております。今年度の子ども達の学習の成果をお伝えし、今後の教育活動に生かしていきたいと思っております。今月も引き続き本校の教育活動にご理解とご協力、ご支援を賜りますよう、よろしくお願ひいたします。

<書初め展> (写真は5年生の席書会のようすです)

冬休み明けに、書初めを行いました。1年生は硬筆、2年生はフェルトペン、3～6年生は毛筆で、一人ひとりの思いを書きました。

また「校内書初め展」を開催し、他の学年の書初めも鑑賞しました。期間中に土曜参観があったので、ご来校いただきました保護者の皆様にも見ていただくことができました。

